

小網代の森と干潟を守る会
小網代 森と干潟つうしん



森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067 (仲澤)
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)
郵便振替：00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

小網代の森と干潟を守る会
スタッフ一同



いつも小網代の森と干潟への
応援をありがとうございます。
本年もどうぞ
よろしくお願いいたします。

謹賀新年

第 118 回自然観察&クリーン

「小網代干潟の冬の植物」



12月7日(土) 晴れ

三崎口駅前に集合したのは、2人のお子さんを含めて13名。落ち葉のじゅうたんを踏みしめて、尾根道を一路干潟へと下ります。12月の小網代はアシやオギ、イヤスゲといった、私たちには見分けにくい草々とカタチも大きさも異なるドングリたちが「どうだ 分かんないだろ!」と言わんばかりに、とんでもない大群で待ち構えているのです。そして、その分かんない植物たちを、分かりやすく解きほぐしてくれるのが鈴木講師。しかし、干潟で現物を見ながら講師の説明を聞いていると、アイアシのほのかな藍色とか、カヤツリグサ科のあれやこれなどなど一つ一つがスト

ーンと胸に落ちてくるのですが、さてこれを文章に書いてとなると、難しいの何のって、とても人に分かるようになって書けません。でも、ひとつだけ書きます。アイアシって小網代にはたくさん生えていて、珍しくも無ければ、ありがたくもない植物なのに、神奈川県では絶滅危惧種! びっくりです。ほのかな藍色が美しく、とても愛おしく見えてきます。

大人たちが冬の植物と格闘している間に、お子さんたちは干潟で貝やヤドカリと戯れていました。小さなビニールプールや公園の水場とはちがう、大きな水遊びを存分に楽しんでくれたようです。この子たちが未来の子どもたちを育てるようになるのも、実はそんなに遠い先のことではないのです。だから、自然大好き、生きもの大好きなお父さんお母さん、お子さんを連れて小網代の森と干潟へ来て

ください。子育て中の自然観察なんて、冗談じゃなく大変で疲れるけれど、できる限りサポートさせていただきます。ご一緒に未来の子どもたちのために今できることをいたしましょう。



＊観察した植物（ほんの一部）＊

草 : ヨシ、アイアシ、オギ、ウキヤガラ、
カモノハシ、アシボソ、ササガヤ、ヒメガマ、
ナガボテンツキ

ドングリ

細長いドングリではかまがしま模様 : アカガシ、
アラカシ、シラカシ

細長いドングリではかまがうろこ模様 : ウバメガシ、マテバシイ、コナラ

丸いドングリ : クヌギ

三角のドングリ : スダジイ

(文:橋 美千代、写真:浪本晴美)

※ 観察会は NPO 法人小網代野外活動調整会議と共催で実施し、アカテガニ広場や倉庫を使わせていただきました。

ご参加の皆様からのメッセージ

6歳の娘と3歳の息子と初めて参加しました。
木や植物 海の生き物
たくさんの種類の生き物に囲まれ、
幸せな時間でした。
また近所の子も連れて来たいです。
菅原様

☆ 小網代は
落ち葉ひらひら
陽は西へ

☆ 小網代は
不老長寿の風が吹く

中野様

青い空とキラキラする日ざしの下でイネ科やカヤツリグサ科の貴重な植物を
教えていただきありがとうございます。
ドングリの見分け方も参考になりました。またの機会を楽しみに
須田様



第31回 ナショナルトラスト全国大会が開催されます

日時:2014年3月2日(日) 14:00

会場:主婦会館プラザエフ B2F クラルテ(JR 四ツ谷駅麴町口 徒歩1分)

お申込み・お問合せ

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会

TEL. 03-5979-8031/FAX.03-5979-8032

E-mail: office@ntrusut.or.jp

随想 小網代でんてん⑩

オオハナワラビ

須田漢一

いるか丘陵のしっぽに位置する森戸川流域で、花の咲いたシダを見た。黄褐色をおびている。

シダに、花？

誰かが、フユノハナワラビだ、と教えてくれた。それからは馬鹿の一つ覚えで、花の咲いたシダを見るたびに、フユノハナワラビですませていた。

あるとき図鑑を見て驚いた。このなかま(ハナワラビ科)には、オオハナワラビ、ヒメハナワラビ、ナツノハナワラビなどがあり、三浦半島には、フユノハナワラビとオオハナワラビの2種が自生している、とある。

小網代の森を訪ねた2012年1月、大蔵緑地手前の坂で、似たようなシダを目にした時は嬉しくなった。とっさにフユノハナワラビと思ったが、何か、ちよつと違う。もしかしたらオオハナワラビかも、と疑問のまま月日が過ぎた。

11月の観察会に講師の鈴木清市氏が「オオハナワラビ」と迷わず同定してくれた。すごい。

一件落着である。

オオハナワラビは秋から冬に見られる多年草のシダで、地表近くの柄が2つに分かれる。一方は栄養葉、もう一つは胞子葉となり、伸びた茎に胞子のう(袋)が並んでいる。

それが花のように見えたのだった。

ほとんどのシダは葉の裏面に胞子のうをつけているのに、ハナワラビのなかまが、茎にあるのは、なぜだろう。いつだったか映像で、割れた胞子のうから多くさんの胞子が飛び散っていくのを見た。茎を伸ばしているのは、胞子をより遠くに飛ばすためだろう、と単純に考えたが、違っているかもしれない。

アカテガニは、母ガニから放された何万と云うゾエアが引き潮に乗って流れ、プランクトンを食べ、脱皮を繰り返して、子ガニとなって陸へ戻ってくる。親ガニになれるのは数匹といわれる。シダの胞子はたまたま条件の良いところに落ちただけが芽生え、その場所で一生をすくす。

生命をつなげていくのには、いろいろな方法

があり、どれが正解というわけではない。

シダ植物は、約4億年前の古生代・デボン紀のころ地球上に出現し、1億年を経た石炭紀に、数多く茂っていた。現在のシダとは異なる木生シダの鱗木、封印木などは高さが30メートル以上、幹は根元で直径1メートルもあつた。その化石(石炭)は産業革命以降、人類の主要なエネルギー源になった。

今は、それほど話題にされないシダ植物だが、形や大きさを変えて、私たちの生活のなかに生きている。

食用としてのワラビやゼンマイ。ウラボシはしめ飾りに、ヘゴの幹は建材やランの着生台に、観葉植物としてのアジアンタム・・・というように、太古から絶滅もせず生きてきたことに、畏怖の念を覚える。

小網代のシダといえば、アスカイノデが目につく。その傍らで、オオハナワラビが、したたかに生きていくことを忘れてはならない。

(2012、1/15、11/17 観察)



干潟の雑学 (10)

小網代干潟の綺麗な仲間、 光合成をするウミウシのエネルギー戦略

ウミウシの仲間には特異な暮らし方をしている種類が多いようですが、その中でも非常に変わった食生活をしている仲間がいます。それは囊舌目(のうぜつもく)(*Sacoglossa*)のウミウシで、ナギサノツユ上科(*oxynooidea*; ユリヤガイ科とナギサノツユ科)、ゴクラクミドリガイ上科(*Elysiidea*; チドリミドリガイ科とササノハミドリガイ科とゴクラクミドリガイ科)、ハダカモウミウシ上科(*limapontioidea*; カンランウミウシ科とオオアリモウミウシ科とハダカモウミウシ科とミドリアマモウミウシ科)などがあります。この仲間のほとんどの種類は美しい緑色をしており、体長が10ミリから20ミリくらいです。

囊舌目のウミウシ類は歯舌嚢内に特徴的な歯舌を持っています。そしてゴクラクミドリガイやチドリミドリガイなどのように貝殻を持たない種類から、巻貝型の貝殻を持つナギサノツユ(*Oxynoe viridis*, ナギサノツユ科)、二枚貝の片側だけが伸びた形の貝殻を持つフリソデミドリガイ(*Lobiger viridis*, ナギサノツユ科)、二枚貝のように左右二枚の殻を持ち、殻を閉じることができるユリヤガイ(*Julia exquisite*, ユリヤガイ科)やタマノミドリガイ(*Tamanovalva limax*, ユリヤガイ科)などの種類があります。成体で貝殻を持たない種でもベリンジャー幼生の時には幼殻を持っていますが変態をするときに捨ててしまいます。

この囊舌目のウミウシを50年近く前に研究してウミウシが光合成をすることを世界で始めて発見したのが川口先生です。光合成をする動物にはサンゴやシャコガイなどがあります。これらの動物は単細胞性の藻類である渦鞭毛藻類を体内に取り込み共生藻類が光合成によって作り出すエネルギーを利用しています。しかし囊舌目のウミウシは共生藻類ではなく海藻の葉緑体を利用して光合成を行い、エネルギーを得ているのです。

囊舌目の仲間のウミウシは口(歯)の構造が他のウミウシとは異なっており、わずかな例外はありますが海藻の汁を食料とするベジタリアンです。餌とする海藻の種類はウミウシの種によって異なりますが、ミルやハネモ、イワヅタなど大型の多核細胞の管状の緑藻類を食べているようです。これらのウミウシの仲間には口の両側に”*pharyngeal crop*”と呼ばれる特殊な器官があり、これを使って海藻の表面に小さな孔を開けて中の細胞液を吸い取る方法での食事なのでこれらの海藻では細胞の一つ一つに穴を開ける必要がなく効率よく食事ができるようです。この”*pharyngeal crop*”という器官から取り込まれた細胞液、葉緑体、すべての細胞内小器官はそのまま食道、胃を通り(肝すい臓の小管内に送られ、肝細胞に)食物の消化や吸収を行う中腸腺(消化腺)という腺状組織の細胞に運ばれ取り込まれます。植物の葉緑体の起源はラン藻のような原核光合成細菌で、植物細胞の祖先の細胞内に共生したものです。そして進化の過程で現在のような細胞内小器官になったものです。



植物の核ゲノムには葉緑体の構成タンパク質の大半の遺伝情報や葉緑体の制御を行う遺伝情報などさまざまな情報が含まれています。川口先生はクロミドリガイ(*Elysia atroviridis*, ゴクラクミドリガイ科)においてミルからの盗葉緑体(kleptoplasty)を発見しました。

盗葉緑体(kleptoplasty)を行うウミウシかどうかを調べるにはウミウシの体の中のクロロフィルが光合成に使われているかを調べることで行われています。以前の研究の一つであるクラーク先生たち(1990)による光合成の炭素固定率に基づいての研究では

レベル1:葉緑体の直接の消化

レベル2:2時間以下の機能的でない葉緑体の保持

レベル3:24時間以上の機能的でない葉緑体の保持

レベル4:24時間以下の機能的な葉緑体の保持

レベル5:1週間以下の機能的な葉緑体の保持

レベル6:1週間以上の機能的な葉緑体の保持

の6つのレベルに分類しています。

しかし、最近ではクロロフィル蛍光の測定をすることによって行われます。この測定方法はパルス変調法(PAM: Pulse Amplitude Modulation、光合成の光化学反応にどれだけエネルギーが流れるかをクロロフィル蛍光の測定によって調べます)と言います。さらにクロロフィル蛍光から相対的な光合成の電子伝達速度(ETR: electron transport rate)を推定し、最終的に光合成の光化学系Ⅱが吸収した光量子あたりの電子伝達量(maximum quantum yield of charge separation in photosystem Ⅱ: yieldとも)を推定することになります。

この方法は非破壊的に短時間で測定できることが長所です。このような方法を使ってウミウシの持つ機能的な葉緑体の保持量=RFC(retain functional chloroplasts)を毎日計算します。このように RFC を測定することにより、これまでに盗葉緑体(kleptoplasty)ウミウシを3つの異なったレベルに分類し、ウミウシの機能的な葉緑体の保持能力を8つのレベルに分けることが行われています。エバートセン先生たちの研究(2007)では

カテゴリーA:RFCが11ヵ月以上も続く種(*Plakobranthus ocellatus* チドリミドリガイ)

カテゴリーB:RFCが3ヵ月続く(80日)種(*Elysia timida*)

カテゴリーC:RFCが2週間以上は続かない(10日から15日)種(*Elysiella pusilla*(ウチワミドリガイ)、*Elysia* sp., *Elysia tomentosa*, *Thuridilla. carlsoni*(シロアミミドリガイ)、*Thuridilla. lineolata*)

と分類されています。



さらに、8つのレベルにも分けています。

レベル1: 光合成による炭素固定がない

レベル2: 光合成による炭素固定が2時間続く

レベル3: 光合成による炭素固定が24時間以上続く

レベル4: 機能的な葉緑体を保持し1日以下で光合成のできる状態

レベル5: 1日から7日まで機能的な葉緑体を保持

レベル6: 7日から30日まで機能的な葉緑体を保持

レベル7: 30日から90日まで機能的な葉緑体を保持

レベル8: 90日以上機能的な葉緑体を保持

囊舌目のウミウシはなぜ異なった機能的な葉緑体の保持量(RFC: retain functional chloroplasts)を示すのか。特定の種類の緑藻類を食べているウミウシが葉緑体を使ってエネルギーを得ることができるようです。機能的な葉緑体を保持できる種の最も普通の食事はハネモ目(Bryopsidales)の緑藻類のようです。この中でミル科(ミル *Codium fragile*)とイワズタ科(ヘライワズタ *Caulerpa brachypus*)は葉緑体の自立性と安定性が陸上植物のものとは比べて高く、たくましい葉緑体を持っていることが解っています。(葉緑体の自立性とは葉緑体ゲノムの核ゲノムへの依存度が低いことであり、ゲノムの退化が陸上植物のものよりも進行していないので核ゲノムから引き離されても葉緑体が維持され易いようです。また安定性では浸透圧ストレスに強く、界面活性剤や熱処理や超音波処理などにも耐えるようです。)また一年を通しての食物の緑藻類の利用時期なども葉緑体の保持に影響があるようです。これまで日本に棲息する種で盗葉緑体(kleptoplasty)を行い、光合成能が確認された種は

ササノハミドリガイ科 *Bosellia* 属のヒラタイミドリガイ(*Bosellia* sp.)

ゴクラクミドリガイ科 *Elysia* 属のヒラミドリガイ(*Elysia trisinuata* Baba,1949)、コノハミドリガイ(*Elysia ornate* (Swainson,1840))、コノハミドリガイ近縁種(*Elysia* sp.)

ユリヤガイ科 *Julia* 属のゼブラユリヤガイ(*Julia zebra* Kawaguti,1981)

ハダカモウミウシ科 *Placida* 属のミドリアマモウミウシ(*Placida dendritica* (Alder & Hancock,1843)

チドリミドリガイ科 *Plakobranthus* 属のチドリミドリガイ(*Plakobranthus ocellatus* Van Hasselt,1824)

ゴクラクミドリガイ科 *Thuridilla* 属のヨゾラミドリガイ(*Thuridilla vatae* (Risbec,1928))

の8種で囊舌目の多くの科に見られるようです。





小網代のコノハミドリガイ
(*Elysia ornate*(Swainson,1840))

以上のように盗葉緑体については生化学的にはかなり研究されてきていますが、盗葉緑体がウミウシの生活史においてどのような役割をしているのかはまだよく分かっていません。最近、盗葉緑体による光合成がウミウシの生存と成長にどのような影響を与えているのかがヒラミルミドリガイとチドリミドリガイの飼育実験によって調べられています。この実験の結果、生息地に餌の緑藻類が豊富なヒラミルミドリガイでは4日以内に光合成機能が著しく低下しましたが、生息地に餌の緑藻類が非常に少なかったチドリミドリガイの光合成機能は実験期間の17日間ほとんど低下しませんでした。このようなことから盗葉緑体の維持期間の違いは生息地での餌となる緑藻類の豊かさによるものと思われます。

光合成をするウミウシの発見は1960年代の日本の川口先生ですが、その後の研究は主にイギリスで行われていたようです。最近になって日本でも“盗葉光合成をするウミウシの研究が行われるようになったようです。

小網代ではこれまでにウミウシの仲間は40種以上見られています。この中で光合成をするウミウシの仲間はゴクラクミドリガイ科のコノハミドリガイ(*Elysia ornate* (Swainson,1840))とヒラミルミドリガイ(*Elysia trisinuata* Baba,1949)の2種が小網代でも見られています。

小倉 雅實

参考資料: クラーク先生たちの研究、1990年
エバートセン先生たちの研究、2007年
山本義治先生の研究、2008年
山本晶子先生たちの研究、2011年
彌益輝文先生の研究、1997年



小網代のヒラミルミドリガイ
(*Elysia trisinuata* Baba,1949)
緑藻類のミルに着生



匂い立つテイカカズラ



ジポーリン菜穂子

お正月はいいものですね。どのように過ごされますか。凧あげや、かるたなど、昔からの遊びなど大手をふってできることも嬉しいですが、なんといっても、小倉百人一首でしょう。まずは、「坊主めぐり」から始められた方も多いのでは。これ、お姫さまは着物が綺麗ですから、まあよいとして。お殿様は、ただの「フツウの人」だし。私たちの救済のために修行を積まれた、ありがたーいお坊さまは、「ボオズ」と呼び捨てにされ。集めた札をあきらめねばなりませんから、子どもたちに、いやがられるの、なんの。特にいやがられていたのは、蟬丸でした。今から思えば、バチあたりなことです。しかし、憎まれ役を買いながらも、執着を離れることを、小さいうちから教えてくれたのかもしれない。

かるたはポルトガル語だそうですね。トランプを始めとして、カードを使った遊びは、世界のあちこちであるそうです。日本のかるたの起源は、平安の貝合わせと考えられていますね。平安貴族の方々も干潟におもむき、貝合わせによさそうな二枚貝を探されたのでしょうか。お従きの仕事でしょうか。

百人一首に小倉がつくのは、あまたある百人一首のうち、小倉山に居を構えていた藤原定家を選んだ百人一首だから。小倉山は、京都の標高300メートル足らずの山です。小倉百人一首は13世紀前半の成立とされています。時代は平安から鎌倉へと移っておりました。お隣では、モンゴル帝国がこの世の春を誇っていた頃です。今の中国、インド、さらにイラン、ロシアの南部、そして、ウクライナやトルコの東部までが、その領土でした。イギリスでは、マグナ・カルタが制定されていました。ラテン語で書かれています。マグナ・カルタ (Magna Carta Libertatum) は、大憲章の意味。英語ですと、the Great Charter of the Liberties of England です。この大憲章の前文は、現行の憲法にも残されているそうです。

定家は、小倉山の東、嵯峨野の時雨亭に住んでいましたが、この小倉山に、歌の好きなお坊さま、宇都宮蓮生が山荘を建てることになりました。宇都宮蓮生は、もとは、鎌倉幕府の御家人。しかし、権力闘争を逃れるべく、僧となり、歌を愉しみとするために京都にやってきたのです。この方の山荘の襖絵のために、定家が和歌を選びました。飛鳥時代の天智天皇から鎌倉時代の順徳天皇までの600年ほどの間から、百首です。そして、色紙を作ったのだそうです。定家の筆跡は独特ですね。というか。あ、なあんだ、みたいに、字が上手でない者にとっては、少し、うれしくなってしまうような字です。しかし、この字を、茶人の小堀遠州などは、美しいものとして超絶賛しています。たとえばなにか基準があって、それをきちんときれいに完璧にしたもの、が美しい、というわけではないのですね。基準などくそくらえ、みたいどころ。日本の美のすごさ、深遠さですね。ただ、その基準が曖昧なだけに、美学として、言葉にして世界に伝える、ということがなかなか難しいです。それにしても、学校のお習字の先生が、小堀遠州みたいだったら、お書き初めは、さぞ、愉快的なことでしょう。



さて、時代は下って、時は室町。お隣は、李氏朝鮮。また、中国は元から明に代わっていました。ヨーロッパでは、まさに大航海時代を迎えようとする15世紀。日本は、わびさびを極めておりました。金春禅竹。猿楽師、能作者。世阿弥を最後に看取った弟子とも言われています。謡曲もいろいろ作りました。そのうちのひとつと考えられているのが、その名も「定家」。こんな内容です。

京都を旅していたお坊さま。時雨が降ってきたので、宿り場所を見つけ、駆け込みます。ひと息ついていると、葛が這いまとって形も見えないような石塔があることに気づきます。そこへ里姿の女。そして話し始めます。その場所が定家の時雨亭であること。石塔は後白河天皇の皇女、式子内親王のお墓であること。そして、そのお墓が見えなくなるくらい、這いまとわりついているのが、定家葛、テイカカズラであること。

当時は、天皇の皇女ということで、恋愛もままならなかったようですね。その式子内親王のもとへ、定家が忍んでやってくるようになります。それに応えた内親王の気持ちを、里の女は、内親王の和歌を引用して伝えます。

玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば
忍ぶることの 弱りもぞする

魂の緒、つまり、命なんて絶えてしまってもいい。このまま生きていたら、恋する気持ちを隠しきれなくなってしまうから、というのです。百人一首にも選ばれていますね。しかし、やがて内親王は先にお亡くなりになる。そして、「定家の執心葛となって」、内親王のお墓に這いまとようようになったのだと、里の女。ふたりは、どうしても離れられず、執心から今なお、苦しんでいるのです。気の毒に思ったお坊さまは、悲恋のふたりのためにお経をあげます。するとフシギ。お墓にまとわりついていたテイカカズラもほどけていきます。そうすると、先の里の女は、実は式子内親王自身であると、お坊さまに告げます。内親王の霊だったのです。葛がまとわりついて、苦しかったが、お経のおかげで楽になった、と喜びます。そのお経が『法華経』の薬草喩本であることを指摘。なかなかの教養です。内親王は、お礼に舞を舞ったあと、墓の中にもどります。そして、その墓には、再び、テイカカズラが這いまとようのです。

本当のところは、どうだったのでしょうか。謎です。式子内親王は、定家のお父様の藤原俊成に和歌を習っていました。定家の『明月記』には、式子内親王のことがかなり詳しく書かれているそう。13歳年上の式子内親王を、定家は、おそらくは慕っていたのでしょうか。

たきものかおるこうかおるかお
「薰物馨香芬馥タリ」式子内親王のことを、香りたつ女性であると、書いています。しかし、式子内親王が残されているものには、定家のでの字もないそうなのです。また、こんな話も。ふたりの仲を忠言しようと俊成が、定家の居を訪ねます。定家は不在でしたが、そこには、式子内親王の「玉の緒」の和歌が。ふたりの秘めた激情を知った俊成は、ふたりのことを、そっとしておいてあげることにしたそう。江戸の公家歌人がまとめた「溪雲問答」に、書かれています。しかし、本当のことかどうかは、わかりません。「玉の緒」の歌からすると、人に知られてしまうくらいなら、生きていたくない、というのですから、恋の激情というより、プライドの高さを感じますよね。



定家の自撰家集『拾遺愚草』には、次のような歌があります。

思ふこと むなしき夢の 中空に
絶ゆとも絶ゆな つらき玉の緒



式子内親王の「玉の緒（いのち）」がなくなってしまうでもいい、という気持ちを表した歌に対し、「つらくても、むなくとも、それでも、生きていてほしいんだよ」と応えているかのようです。次のような歌もあります。

乱れじと かくて絶えなむ玉の緒よ
ながき恨みの いつかさむべき



知られてしまわないようにと、念じながら終わりを迎える命だとして、それでもやがて、平穏な気持ちを取り戻せるとよいね、と。定家の式子内親王を憶いはかる気持ちを汲みとることもできますね。さて、定家の和歌で有名なのは、なんとといっても、「見渡せば 花も紅葉も なかりけり 浦の^{とまや}苦屋の 秋の夕暮れ」でしょう。「三夕の歌」のひとつ。あとのふたつは、西行の「さびしさは その色としも なかりけり 禎立つ山の 秋の夕暮」、それから、寂蓮の「心なき 身にもあはれは 知られけり 鳴たつ澤の 秋の夕ぐれ」です。

ところで、定家が百人一首に選んだ自身の歌は、

来ぬ人を まつほの浦の 夕風に
焼くや 藻塩の 身もこがれつつ



来ぬ人を待っていた松帆浦は、明石海峡を臨む岬。古来からの潮待ち、風待ちの地であったそう。小網代もそうです。松帆崎は、今は明石海峡大橋が架かっていますから、景色もだいぶ違うものとなっているのでしょうか。さて、良い匂いのする小網代のテイカカズラの想い人は、やはり、式子内親王でしょうか。それとも。テイカカズラは、英語では、アジア・ジャスミン。ジャスミンはモクセイ科ですし、テイカカズラはキョウチクトウ科なので、本当はジャスミンではないのですが。芝生とは違った趣きのグランドカバーとして愛されています。本当はジャスミンではないのに、ジャスミンの名前がついている植物は、いくつかありますね。ニオイバンマツリも、英語では、アメリカ・ジャスミンです。各地のジャスミン。アラビア・ジャスミンもあります。こちらは、モクセイ科のジャスミンです。マツリカ、茉莉花とも。ハワイでもお馴染みの花。ピカケと呼ばれています。ホノルル空港につくと、ピカケの甘い香りがしますね。ハワイ語で孔雀の意味だそうです。

ワイキキのクヒオ通りとカイウラニ通りの交差点のところにある広場にカイウラニ王女と孔雀の銅像があります。ちょうど、この銅像のある広場からシェラトン・プリンセス・カイウラニのあたりは、カイウラニ王女のお気に入りのお庭だったのだそう。大好きな孔雀を、何羽も飼っていました。白くてよい匂いのする花もたくさん。カイウラニ王女はいつも花の香りがする、と言われていたそうです。茉莉花香芬馥タリですね。それで、王女のお気に入りの孔雀にちなみ、この白い花、アラビア・ジャスミンもピカケと呼ばれるようになったそうです。シェラトン・プリンセス・カイウラニのロビーには、菜の花の色のドレスを着た美しい王女の肖像画が、掲げられています。



ハワイのカラカウア国王は、世界一周の最初の国として、日本にいらっしやいました。そして、ハワイ王国存続のためのお願いごとをいくつか、したそう。そのうちのひとつが、その当時五歳であった、姪のカイウラニ女王と、十三歳であった山階親王とのご縁談でした。明治政府は、前例のないこと、それから、ハワイ王国を援助する国力の余裕がないと、断ったそうです。日本から移民してほしいという願いは、すぐに実行に移されました。しかし、ハワイの王制はその後すぐに逼迫した状況を迎えます。このとき、日本からの移民の安全を確保するために軍艦「浪速」をホノルル港に横付けにしたのが、若き日の東郷平八郎。後のあの戦艦三笠の提督です。リウオカラニ女王からの要請も、あったのでは、ということです。そんなことからか、ハワイでは、ときどき「トウゴウ」ファンに出会うことがありますね。リウオカラニ女王は、結局のところ、「人々が戦ったり、不幸せになるくらいなら、私は、ハワイをアメリカにあげる」とおっしゃったそうです。かくして、ハワイはアメリカ合衆国の50番目の州となりました。

ところで、ハワイ語で「ホノルルHonolulu」は、honoが浦や入り江、luluは穏やかな。「穏やかで静謐な浦」。「ワイキキWaikiki」はwaiが水、kikiは湧く。「水の湧くところ」でしょうか。実際にワイキキ帯は、以前は湿地であったそう。小網代もホノルルワイキキですね。水が豊かで、静かな湾です。今年の歌会始のお題は「静」。さて、どのような和歌がそろうのでしょうか。

参考にした本：

Joshua Mostow, Picture of the Heart: The Hyakunin Isshu in Word and Image, (1996, U of Hawaii Press).

馬場あき子『式子内親王』(1992 ちくま学芸文庫)

堀田善衛『定家明月記私抄』(1996 ちくま学芸文庫)

中院通茂「溪雲問答」『近世歌学集成』上中下(1997～8 明治書院)

Gavan Daws, Shoal of Time: A History of the Hawaiian Islands, (1974, U. of Hawaii Press).

ディープな小倉さんのやっぱりすごい！干潟愛コーナー

本年もどうぞよろしくお願い致します。

藤原定家とテイカカズラですね。

定家が百人一首に選んだ歌に“藻塩”という言葉がありましたね。

“藻塩”は古代から行われていた製塩法ですが、このとき使われていた海藻はホンダワラ類です。万葉集の柿本人麻呂の歌に

「海(わた)の底 沖つ玉藻の なのりその花 妹と我れと ここにしありと なのりその花」とあります。

“なのりそ”は「莫告藻」と書き、“だれにも言わないで”ということです。ホンダワラ類の海藻の古くからの名前です。“なのりそ”の由来は日本書紀にあり、允恭天皇と衣通姫とのお話からこのように呼ばれるようになったとされています。ホンダワラ類はテイカカズラやジャスミンのような花は咲きません。“なのりその花”は花ではなくホンダワラの生殖器床です。古代の日本人は海藻の花も花としてしまうほど自然に対しておおらかで鋭い感性を持っていたようですね。“なのりその花”は春の大潮のころ小網代湾の入り口で見られるかも・・・。



アケモク

カニグッズ(9)

◆ アカテガニ募金のかにグッズ

皆さんは文房具屋さんへ行ったことがありますか。とにかく、いろいろな文房具があつて、見ていると時間がいくらあっても足りないくらい種類があります。今回はそんな中でみつけたり、作ってもらったり、頂いたりの一群です。



「どこで 誰が」の部分はほとんど「忘却の彼方へ」ですが、一番大きいかにのはんこは地球プラザの売店にて2004年2月29日615円で購入との記入がありました。ネパールの産です。他にもいろいろな生き物がはんこになっていました。いろいろ見ているうちに目に止まりました。高山の国なので川に住むかにかにいるのかなと思ったものです。

スタッフ会議の中でかにの判があると便利な場面があつて、伸さんがスルスルと彫刻刀で消しゴムにかにの絵と「小網代の森を守る会」と彫ってくれたのは覚えているのですが、何に使ったのか、何処へやったのか、これも忘却の彼方になってしまいました。

「かに」のはんこで消しゴムにはんを押して、そこを彫刻刀で彫って、陰刻のかにのはんこを作り、紙を添えて、「カニパト」の時の募金グッズにしたことも思い出しました。小さな子にお母さんが買ってあげていました。

また、「がんばったね」と「おうえんしてます」の2つは「はんこや」と言うところで図を描いて作ってもらいました。シャチハタと同じように押せばインクが出てくるタイプです。たくさん、押すのに便利です。インクを足すこともできます。3千円から4千円でした。

いつか小網代の森の自然の中をオリエンテーリングのように「通過したら判を押す」のようなネイチャーゲームをやった時に 出番がくると思います。小網代で判と言え、ば、「かに」ですよ。

かにグッズ収集家 宮本美織

* 現在「アカテガニ募金」はNPO 法人小網代野外活動調整会議が預かり、トラスト財団に寄付をしています。

* 現在カニパトロールはNPO 法人小網代野外活動調整会議が実施しています。

小網代詩人

新しい年

中井 由実

小網代への道を歩いてみると
昔のことを思い出してしまふ

移転して今は無い法務局の

駐車場から見下ろす小網代の全景

風にうねる樹々の向こうに

広がる海が光って見えるのが好きだった

私が最初に小網代に来たのはリ才会議の年

干潟に降りて

初めて見るチゴガニとコメツキガニに取り囲まれ

この命あふれる地を壊すという暴挙が

許されるはずがないと思った

2014年が明けたばかり

今日は冷たい風が吹く干潟に

小さな貝だけがびっしりと散らばっている

そのすきまに足を置き

干潟を見わたしていると

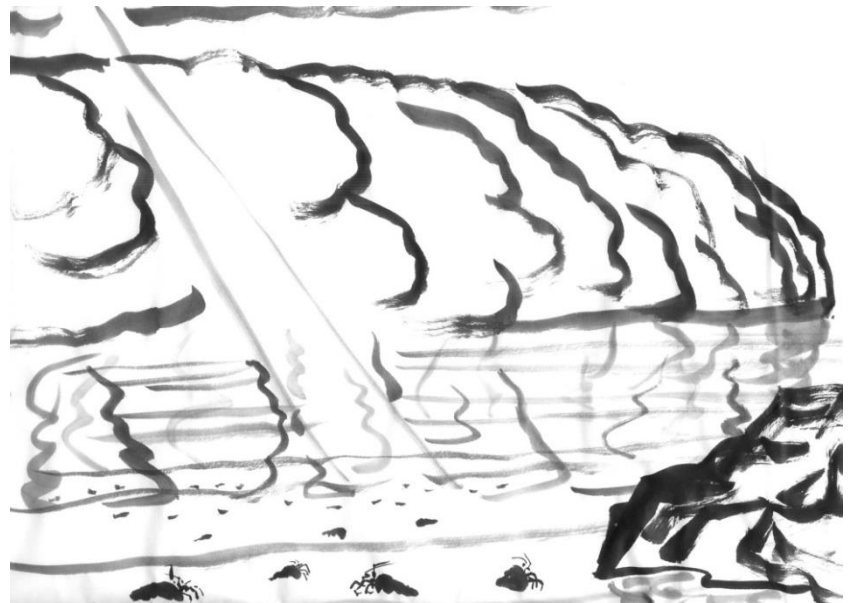
あの時の確信はまちがっていなかったと分かる

関東の冬には珍しい雲の多い空

それが合図か 魚のはねる音がして

不意に雲が細く開き

陽が水面に白い光をさした



はつしお

中井 由実

風に合わせて けれど音もなく

干潟に寄せる波

近づけば あるとは感じないほどの

透明な水が満ちていた

今年最初の潮

潔く

これから染まる一年に向かって

ヤドカリ天国

中井 由実

前から横から

冷たい風が吹きつけてくるから

サギたちも

巣から飛び立つのをあきらめたようだ

湾奥の水の中には

亀田製菓の袋が漂っているだけ

いや、

風が立てる波とは

違う動きの水面がある

岩場の小さな潮だまり

思っておもいの殻をつけた

小さなヤドカリたちが

水底で運動会の勢いだ

凍える温度の水の中で

元気にヤドカリを遊ばせる

小網代湾の自然の深さ また一つ



ジポーリン^{じょうしゅう}周 樞

写真は、僕のお気に入りの通学路です。この「河口の石橋」を渡って授業にいきます。この橋の下を流れているのが、いちご川です。ストロベリー・クリークです。いつもアメンボがすいすい円を

描いて、平和な風景です。白サギが飛んでくることもあるそうですが、僕はまだ、見たことがありません。七面鳥は見たことがあります。

この「河口の石橋」から、少し離れたところに、車の駐車場があります。マンモス大学なので、大学の駐車場は、どこもたいてい、いつでも、いっぱいなのですが、ここの駐車場だけは、余裕があります。特別な人たちのために空けてある場所だからです。学長かだれかかなあとと思って、駐車場のサインポストに書いてある文字を見てみたら、ノーベル賞受賞者用駐車スペースと書かれていました。これまで、20数名の受賞者がいるそうです。バークレイ校で、駐車スペースを確保するためのウラ技は、まずノーベル賞をとることだよ、と冗談で言われています。

2013年は、MCB (Molecular Cell Biology), 分子細胞生物学のランディ・シェックマン教授が、医学生理学で受賞しました。細胞間を移動するたんぱく質の研究だそうです。アルツハイマー病の研究に役立つと言われていますが、シェックマン先生自体は、世の中に役だつから、お金がもうかるから、ということモチベーションにしている、本当の科学は進歩しないと言っています。ついこの間の年末にも、イギリスの『ネイチャー』、アメリカの『サイエンス』『セル』という科学雑誌を、「研究を商品化している。科学の発展の妨げになる」と、批判しました。日本でも新聞などで、報道されたのを帰ってきたときに知りました。権力やエスタブリッシュメントにこびないバークレイのこういうところが好きです。

小網代の森と干潟を守る会の活動

11/17 NPO 法人小網代野外活動調整会議イベント支援
(ココボラ、ボランティアウオーク)

12/7 第 118 回自然観察&クリーン 「冬の植物」

12/7 スタッフ会議 (於 出口商店)

2014 年

1/12 小網代 森と干潟つうしん No.132 印刷・発送
(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)

ご寄付ありがとうございます

森の応援金 望月光子さま

会の活動費 須田漢一さま

以上の方からご寄付をいただきました。ありがとうございます。

のたろんフェアに出展します

今年も、NPO 法人小網代野外活動調整会議とフリーマーケットに共同参加。農業高校から仕入れるパンジーの苗や皆様から応援いただいた品々と会の頒布品などを販売します。横須賀の市民活動団体によるクイズやマジックショー、歌や踊りなどのステージもあるそうです。ちょっとおでかけして、気軽な屋内のイベントに参加されてはいかがでしょうか。

ちなみに「のたろん」とは「のっと あろん・一人じゃないよ」からの命名です。

2014年2月8日(土) 9日(日) 10:00~16:00

横須賀市立 市民活動サポートセンター

(京浜急行汐入駅から徒歩0分 横須賀芸術劇場の建物、1階)

新聞報道(読売新聞 神奈川版 YOMIURI ONLINE より転載)

◆「小網代の森」に遊歩道…県、来夏めどに整備へ



川の源流から河口まで、昔ながらの自然と生態系が残る「小網代(こあじろ)の森」(三浦市)について、県は2014年夏をめどに遊歩道を整備して一般に開放する方針を決めた。公園ではない緑地に県が遊歩道を整備するケースは珍しい。環境保全を図ると同時に、自然学習の場として活用してもらおう考えだ。

小網代の森は1960年代から開発構想が持ち上がり、ゴルフ場が計画されたこともあったが、自然保護団体の反対などで見送られてきた。広さ約70ヘクタールの敷地には、貴重な自然が残されているため、県は環境保全を目的に国の補助金なども活用して10年までに地権者から土地を買収した。費用は約78億円。海岸付近の一部に京急電鉄が所有する土地があるが、周りを県有地に囲まれ、京急も土地の保全に同意している。

11年には、一帯が建物の建設などの開発行為ができない「市街化調整区域」と「近郊緑地特別保全地区」にそれぞれ指定された。

これまでも森に入る歩道はあったものの、狭く、やぶの中を通るところがあった。県は12年度から約2億5000万円をかけて遊歩道や標識などの整備を進めている。

整備するのは、小網代湾の入り江から森の中央にある谷を通って国道134号付近に出る歩道約1.3キロ。海岸付近の水田跡がある周辺は、NPO法人が湿原への復元を進めており、木道を設置する。ほかに、森の北西側と、南西側の油壺(あぶらつぼ)地区方面からそれぞれ湾の入り江に向かうルートに階段をつける。

駐車場は整備せず、電車やバスなどの公共交通機関の利用を呼びかける考え。入場料は設けないが、夜間の利用や遊歩道から外れた地域への立ち入りは許可しない方向だ。

県自然環境保全課は「環境学習や散策などで県民に有効に活用してもらいたい」としている。

(2013年12月31日 読売新聞)

第 119 回自然観察 & クリーンのお知らせ

主催：小網代の森と干潟を守る会 共催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

◆ 小網代の早春の海藻と磯の生きもの

毎年早春の1月、2月頃は海水温が一番低くなります。海藻（ワカメ、ヒジキなど）は海水温が20度くらいになると元気がなくなり、さらに水温が上昇すると枯れてしまいます。海藻が一番元気な2月、3月頃は海藻とそこに棲む小さな生き物の観察に最適な季節です。早春の小網代ではさまざまな海藻とそこに棲む小さな生き物に出会えます。



- 日 時：2月15日（土） *小雨決行
集 合：10:00 京浜急行三崎口駅改札前（トイレがありませんので必ず駅で済ませてください）
解 散：14:00 ころ現地解散
講 師：小倉雅實氏
持 ち 物：長靴、軍手、お弁当、飲み物、雨具、
あれば（図鑑など）、小さなお子さまは着替えもあると安心です
*暖かい服装でご参加ください
*小網代の岩場はすべりやすいので、軍手などを用意してください
申 込：当日現地で受付します
費 用：無料
お問合せ：046-889-0067（仲澤）

NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。通常のトラスト会費（大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円）の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。小網代の森をよろしく願います。

◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議（電話：045-540-8320 E-mail: koajiro@koajiro.org）までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代 森と干潟つうしん NO.132 2014年1月12日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

電話 046-889-0067(副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費：一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会

* 退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6月末)までお届けしております